

年初から武漢ウイルスが
猛威をふるって、政府も自治体も
右往左往しています。

飲食店も閉店時間を早くする
ように指示されて大変になりました。
このような異常事態に対しても
常日頃の備えはなかったのかと
思います。

平常時から備えておけば、
これ程慌てることもないのでは
ないかと思えます。私の両親の
時代は、関東大震災、金融恐慌
日支事変、太平洋戦争と、
次々と大きな災害を受けながら、
何一つ支援を受けなかった。
乗り越えてきました。

しかしそのため、年中無休で
働き続けたのです。

現代は休日が多く、一見それが
幸せだと思つて来ましたが、実は
不安な人生を作り上げました。

人間は働くことによつて心が安定し、そこに喜びがあります。

少ない休みには楽しみもあり心にゆとりをもたうします。

それが今のようにならば、三連休・五連休が何回もあれば、楽しむよりももてあますことの方が大きいと思ひます。

小人閑居して不善をなす。

この諺が現代に当てはまります。よからぬ犯罪がふえた一因にもなつてゐます。

かつて、ゆとり教育を施行した時に、学力は低下し、非行少年が増えたことを見ればよく介かります。

現代起きていることから学ぶことでこれから生き方を考えなおすことが求められているのではないかと思ひます。

李登輝氏の本をお届けいたします。
金井山秀三郎様